

# ボクと彼女の、 花。

守田 慎之介

○登場人物

ボク…小学校5年生、大学3年生、小学校3年生、30歳青年などを演じる。

彼女…小学校5年生、女子大生、母、小学校3年生、妻などを演じる。

男…大学3年生、父、小学校3年生、息子などを演じる。

女A…小学校5年生、女子大生、姉、孫などを演じる。

女B…女子大生、花屋、孫などを演じる。

■みかんの花咲く丘

時間になる。

と、俳優が舞台に現れ、それぞれの時間を過ごしている。

体操をするもの、読書をするもの、横になるもの、食事をするものがいても良い。

ボクが「はじまり」を告げる様子を見せ、そこからおはなしがはじまる。

俳優はボクを囲むように立ち出し、ボクを中心に、俳優たちが踊り、歌い出す。

【♪みかんの花咲く丘】

歌い終わった俳優たちは、散り散りに去って行く。

■踏みつぶした花（小学校5年生）

と、彼女と女Aがそこにいる。舞台は学校の中庭。

【♪みかんの花咲く丘】で二人は手遊びをしている。

そこにボクが現れる。

ボク （歌に合わせて） ♪みかんにカビがく

女A 邪魔せんだよ。

ボク そんなんして、楽しいん？

女A 何？

ボク そんなんして、何が楽しいん？

女A うるさい。

ボク 楽しいんですかー？

女A 男子、うるさい。  
ボク 女子のが、うるせえし。  
女A うるさくないし。ねえ、ゆりちゃん。  
ボク うるせえちや。歌とかうたって。  
女A 中庭なんやけ、いいやん。  
ボク うるせえ、うるせえ。  
女A なら、他の場所に行けば？  
ボク ここでドッジするんやけ。  
女A は？  
ボク ドッジ。  
女A ここで止めてよ。  
ボク 何でかちや。  
女A 邪魔やろ。ここ、花だって、あるし。  
ボク 関係なかろうが。  
女A ある。  
ボク ねえちや。  
女A 踏んづけたら、どうするん？ねえ？  
彼女 ああ・・・  
ボク どうでもいいし。  
女A 良くない。  
ボク 花とか、どうでも。  
女A ドッジなら、グラウンドに行けば？  
ボク うるせえ。  
彼女 ねえ、どっか行こ。  
女A ゆりちゃん、何で？こちらが先におったんやけ。  
ボク どっか行けちや。  
女A どうせ、6年が怖いけやろ？  
ボク ・・・。  
彼女 止めよ。  
女A だけ、あっち行けんのやろ？  
ボク 違うし。  
女A じゃあ、何なん？  
ボク ・・・。  
女A 一個しか違わんのに。弱虫。毛虫。  
ボク 違うし。

彼女 (女に) ねえ。

女A 違わんね。

ボク 違うちゃ。

女A じゃあ、何なん？

ボク ここ・・・俺らの場所やけよ。

女A 何それ。

ボク そうなんちゃ。

女A 無視しよ、無視。弱虫は、無視。

ボク 弱くねえちや。

女A じゃあ、最初からね。

彼女・・・うん。

ボク 行けちや。

女A セーの、

ボクを無視するように二人は手遊びを再開する。

苛立ちながら二人を見ていたボクは、しばらくしてそこに咲く花を踏み潰す。

彼女 え。

ボク へへ。

女A ちょ、何しよん？

ボク 花。なくなった。

女A 馬鹿やないん。

ボク なくなっただけ、どっか行けば？

女A 最低。

彼女、泣き出す。

女A、彼女を抱き締める。

女A ゆりちゃんが植えたんに。

ボク・・・。

と、周囲から声が聞こえる。

男 泣ーかした。

女B 踏み潰したー。

男 あーあ。

ボク お前らが、どかんけ。

女B そこにいたのに。

男 ずっと、いたのに。

ボク どかんけ。

女A ゆりちゃん、もう、行こう。

彼女 うん。

女A 泣かんの。

彼女 だって。

ボク (ボソリと) 泣かんでいいやん。

彼女を抱えるように、女Aと彼女が消える。

ボク 悪くねえし。どかんけ。

男 何で、あんなことしたの。

女B 可哀相に。

ボク 全然。

女B 寄り添ってくれるのに。花は。

男 ねえ。

女B 花のない生活なんて。

男 だから、荒れるんだよ。

ボク え？

男 生活が。

### ■眺めた花（大学3年生）

と、ボクのそばに、男が現れる。舞台はボクの部屋。

男 コンビニ弁当ばっか、食って。

ボク うるせえ。

男 自炊しろ、自炊。

ボク めんどくせえ。

男 今日、授業は？

ボク 大丈夫、大丈夫。

男 何が、大丈夫なん。

ボク まだ春やし。

男 春からの大学3年、お先真つ暗やな。

ボク 大丈夫、大丈夫。

男 暗闇。

ボク 暗闇って。

男 カーテンぐらい開けろよ。

男、カーテンを開ける。

ボク ぎゃー、眩しい。

男 コウモリか。

ボク 日光がづらい。

男 コケが生えるぞ、コケが。

ボク 生えるか、ボケ。

男 心にコケが。モヤモヤ。

ボク 何か、それ。灰皿、取って。

男 灰皿？

ボク そこにある。

男 少しは動け。

男が、ボクに灰皿を渡す。

ボク タバコも。

男 お前ね、

ボク 灰皿とセットやろ。タバコ。

男 知らんし。

ボク ライターも。

男 せっかく、良い話持って来ちやったんに。

ボク え？何？

男 話す気、なくすわ。

ボク なくさない、なくさない。

男 何か、態度がねー。

ボク (その場に正座し) はい、どうぞ。

男 ……。

ボク どうぞ。

男 今から、花見、行くぞ。  
ボク 花見？

男 花見。

ボク ああ。(ダラっとする)

男 何でかちや。

ボク 花見って。

男 女子大の子が来るんぞ。

ボク ああ、そう。

男 テンション上がれや。

ボク 別に。

男 上がるやろ。女子大つち響きだけで。じょ・し・だ・い。

ボク ゆっくり言ったって、一緒ちや。

男 女ゲットする、チャンスぞ。

ボク お前、彼女おるやろ。

男 だけ、うちの彼女がセッティングしてくれたんよ。

ボク あ、そう。

男 行こうぜ。

ボク めんどくせえ。

男 は、なし。

ボク ……。

男 女はいいぞ。女は。

ボク おっさんか。

男 セッティングしたんやけ。俺に恥かせんな。

ボク 勝手に。

男 ほら、準備しろちや。

ボクと男、消える。

入れ替わるように、彼女と女Aと女Bが現れる。舞台は桜の咲く公園。

女Aはだいぶ酔っている様子。

女A 格好良い？ホントに格好良いんですか？

女B 会ったことないんって。

女A ないんかい！

女B さっきから言いようやん。

女A こういう時っち、大体、だっさいのが来るんよ。ね、桃子？

彼女 別に、そんなこと、ね。

女A いいや。うちの勘は鋭いけね。研ぎ澄まされた、勘。研ぎ勘。

彼女 ちょっと、飲み過ぎ。

女A 全然やし、全然。

女B どんなんが来ても、これじゃ。

女A 何ち？

女B 何もない、何もない。

彼女 大丈夫？

女A 誰が大丈夫？つち言いよんよ。（横になりながら）♪研がれた缶に、花が一輪♪

女B あー、失敗した。セッティング。

彼女 ね。

女B 桃子、あんたが頼りやけね。

彼女 え？

女B 今日。

彼女 どうしたらいいん？

女B 別に、付き合うとかにならんでもいいんやけ。

彼女 いや。

女B とりあえず、ちゃんとセッティングしたよっち。

彼女 ああ。

女B それが伝われば。

彼女 うん。

女B 恥かきたくないやん。彼氏に。

彼女 まあ、そうやね。

女B すでに隠したいもん。これ。

彼女 これ、ね。

女B 隠すもん、ないかな。

彼女 え？隠すもの？

女B よし。土でも、かぶせるか。

彼女 死ぬ、死ぬ。

女B （ポケットを弄り）あ。ごめん。

女Bの携帯電話が鳴ったようで、

女B （携帯電話を取り）はい。うん、あ、ちょっと、待ってね。（彼女に）桃子、ちょっと

迎え、行ってくる。



彼女  
ん。

女Bが消える。

彼女 風。が、出て来たね。ほら、桜。

女A  
・・・。

彼女 完全に寝とるやん。

彼女は立ち上がり、

彼女  
わー。

と、ボクが現れる。

ボク  
・・・。

彼女 (気づき) こんにちは。

ボク こんにちは。こんばんは。

彼女 あ、こんばんは。

ボク  
・・・。

彼女 えっと。

ボク 二人、トイレに行くつち、言つて。

彼女 え？

ボク あの・・・二人。

彼女 ああ。

ボク うん。

彼女 二人で行かんでもいいのに、

ボク うん。

彼女 ですね。

ボク はい。

間。

彼女 あ、今、桜が。

ボク はい？

彼女 桜が、風に。

ボク ああ。だいぶ散ってる、ますね。

彼女 え？舞ってないですか？桜。

ボク ああ。

彼女 ほら、舞ってますよ。ヒラヒラって。

ボク いや、ボロボロ散ってるんじゃないですか？あれ。

彼女 そうですかね。

ボク あ・・・いや、どうですかね。

彼女 ……。

ボク あれ？もう寝てんだ。早いな。

彼女 ああ。

ボク これ、飲んでいいんですかね？

彼女 あ、はい。

ボク 花見つち言ったら、酒ですよ。いただきます。（一気に飲み）ぱー。

彼女 舞ってるのに。

ボク え？

彼女 舞ってる。

女B 待ってる。

男 待ってるよ。みんな。

ボク まってる。

女B 待ってる。

ボク 待つ？

女B みんな。

ボク みんなつち、誰？

彼女 お母さんも。

男 お父さんも。

女B お姉ちゃんも。

男 おじいちゃんも。

女B おばあちゃんも。

彼女 お母さんも。

女B 親戚も。

男 近所の人も。

女A お母さんも。

男 みんな。

女B そして、産まれた。

■祝福の花（新生児）

と、彼女と男が現れる。舞台は実家。  
彼女は赤ん坊を抱いている。

彼女 ただいま。

男 ようこそ。

彼女 何、それ。

男 ほら。（笑って）初めての家やし。

彼女 ああ。

男 ね。

彼女 でもさ、

男 ん？

彼女 お腹ん中では、ずっと。

男 ああ、そうか。

彼女 うん。

男 ・・じゃあ、おかえり？

彼女 さあ。

男 ん？どっちやろ？

彼女 どっちでも、いいよ。

男 ああ、そうか。

彼女 もう、（赤ちゃんに）お父さん、ソワソワし過ぎやね。

男 するやろ。

彼女 二人目よ。

男 それでも、やっぱり、ね。

彼女 そうやね。

男 （赤ちゃんに）お母さんも、ソワソワしとるんぞー。

彼女 ちよっとね。

男 ちよっと落ち着いたら、連絡せなな。

彼女 連絡？

男 親戚とか、近所に。息子が家におるぞっち。

彼女 そうやね。ただいまー。

そこに女Aが現れる。

女A ……おかえり。

彼女 ばあちゃんは？

女A 寝ちよる。

男 もう。帰るっち連絡したんに。

彼女 疲れとるんよ。

男 でもさ。

女A、モジモジしている。

彼女 どしたん？

女A お母さん。

彼女 ん？

女A それ。

彼女 それ？ああ。

男 それは、ないやろ。

彼女 これ？

男 これも。

女A 弟？

彼女 そうよ。弟。

女A 動くん？

彼女 (笑って) 動くよ。

女A 動くんやん。

男 当たり前やろ。

彼女 動くし、泣くし、笑うし、怒るよ。

女A 怒るん？

彼女 うん。

女A 怒るんやん。

男 お前が悪いことしたら、怒るんぞ。

女A お姉ちゃんなんに？

男 お姉ちゃんでも。

女A 嫌だ。

彼女 (笑う)

男 あら、お前、膝どうしたん？

女Aの膝には絆創膏。

女A ん。

彼女 ホント。大丈夫？

男 どうせ、遊び過ぎたんやろ？

女A 違うもん。

男 じゃあ、

女A おとうとが来るけ。

彼女 ん？

女A おとうとに。

彼女 どうしたん？

女A これ、取って来た。

女Aは、後ろ手に隠していた花を差し出す。

男 花。

彼女 お花、摘んで来てくれたん？

女A 公園で一番、かわいいの。

彼女 そう。

女A いっぱい、探したんよ。

彼女 ホント。

女A いっぱい。

男 ばあちゃんど？

彼女 うん。

男 そりゃ、お袋も疲れたやろ。

彼女 やね。

女A あげてもいい？

男 うん。

彼女（赤ちゃんに）お姉ちゃんが、お花をくれるっちょ。

女Aが赤ん坊に、お花を渡す。

女A かわいい。

男 祝福やな。

女A しゅくふく？

男 そう。

女A 何？しゆくふくつち。

男 んと、ね、ずっと、幸せでありますようにつち。ずっと、元気でありますようにつち。お花をあげるん。

女A しゆくふく。

彼女（赤ちゃんに）良かったね。お姉ちゃん、ありがとつち。

女A へへ。

男 ほら、膝、消毒しちやる。

女A うん。・・・痛い？

男 痛いよ。

女A え。

男と女Aが消える。

彼女（赤ちゃんに）お花が迎えてくれたよ。みんなが祝福してくれとるよ。お母さんも嬉しいよ。

ボク・・・。

彼女（子守歌のように）【♪みかんの花咲く丘】

彼女が消える。

ボクは彼女が消えて行くのを、ずっと見つめている。

■育てた花（小学校3年生）

真夏を告げる音。

そこにはボクがいる。男が現れる。舞台は学校の花壇前。

ボク だりー。

男 だりーね。

ボク 夏休みなのに。

男 学校に来て。

ボク 全然、休みやねえやん。

男 水やったら、終わりやけ。

ボク 遊ぶ時間なくなるー。

男 ほら、水やる。

ボク あー。

男 さっさ終わらそうや。

ボクと男、そこに咲く花へ水を撒く。

ボク つかさ。

男 ん？

ボク 何で、こんなん育てないけんの。

男 何でうち・・・

ボク うん。

男 理科の授業やけやん。

ボク 授業やけどお、違うちや。

男 何？

ボク 何で、理科の授業で、こんなん育てないけんのかっちこと。

男 教科書に載つとるけやん。

ボク 載つとるけどお、違うちや。

男 何？

ボク 何で、理科の教科書に、そんなん載つとるんかっちこと。

男 学校のルールで決まつとるけやん。

ボク ルールやけどお、違うちや。

男 何？

ボク 何で、学校のルールで、育てることが決まつとるんかっちこと。

男 生きる上で、大切なことやけやん。

ボク 生きる・・・お、おう。そうか。

男 うん。

ボク 何か、お前・・・

男 何？

ボク いや、

男 うん。

ボク ・・・・大切なことつち何なん。

男 え？

ボク 生きるのに大切なことつち。

男 いや、分らんけど。

ボク 分らんのかちや。

男 でも、授業のめあてでさ。言いよつたやん。

ボク めあて？

男 植物がどうやって出来るかを知ろう、つち。

ボク ああ。

男 それが大切なことなんよ。

ボク どういうこと？

男 だけえ・・・種を植えたやん？

ボク うん。

男 植えたやろ？

ボク うん。

男 で、種が土の中で、根が伸びて、

ボク 伸びて。

男 芽が出て、はつがして、こう、それが伸びて、

ボク 伸びて。

男 葉っぱがついて、また、それが伸びて、

ボク 伸びて。

男 つぼみが出来て、それから、花が咲いて、あの一、雌しべと雄しべがじゅふんして、また種になるやろ。

ボク うん。

男 ね？

ボク ね、っち言われても。

男 大切なこと。

ボク それの、あの、何が大切なんかちや。

男 だけえー、

ボク だけ？

男 だけ、生き物も一緒つち、先生が言いよったやん。

ボク そうなん？

男 人間も一緒つち。

ボク ああ、うん。

男 全然、授業聞いてなかったやろ。

ボク 人間も一緒なん？

男 つち、言いよったやん。

ボク ふーん。

男 お父さんとお母さんがおるけ、僕たちが生まれたやろ？

ボク そうなん？

男 そんなんも知らんの？

ボク 考えたことなかった。



男 お父さんとお母さんが受粉して、  
ボク 受粉？

男 受粉。  
ボク 受粉するん？

男 一緒に住んどるやろ？  
ボク 当たり前やん。

男 だけ、受粉するんよ。  
ボク え、一緒に住んだら、受粉するん？

男 するよ。  
ボク 受粉したら、どうなるん？

男 だけ、赤ちゃんが生まれるんやん。  
ボク そうなん？

男 そうよ。  
ボク 知らなかった。

男 常識やん。  
ボク ヤバイ。じゃあ、姉ちゃんと、

男 あ、家族は大丈夫。  
ボク そうなん？

男 うん。  
ボク ん？でも、お父さんとお母さんも家族やん。

男 ……ああ。  
ボク え、じゃあ、何で、お父さんとお母さんは受粉するん？

男 何でつち、それは、だけえ、ほら、  
ボク 何だ。それは知らんのか。

男 だけ、勉強するんやんか！勉強せんくせに！  
ボク 怒らんでもいいやん。

男 だけ、家族やない人と一緒に住んだら、受粉するん。  
ボク 家族やない人。

と、そこに彼女が現れる。

彼女 ごめんね。遅くなつて。

ボク わー、すみれ、遅え。  
彼女 ごめん。

ボク 遅えけ、もう、ほとんど、

男 大丈夫よ。

彼女 ごめんね。

男 大丈夫、大丈夫。

ボク 何か、それ。

彼女 あ。(腰を屈め) 花。

ボク え。

彼女 咲いとる。

ボク 気づかんかった。

彼女 (二人に) ほら。ね。

ボクは彼女を眺めている。

彼女 嬉しい。最初のお花。

男 そうやね。

彼女 これ、種になるよね？

男 なるよ。

彼女 そしたら、来年も花が咲くね。

ボク ……。

彼女 わー。

男 先生に言ってみる？

彼女 え？

男 ほら、すみれちゃんが学校で育てたら、みんなも喜ぶやろうし。あの、僕も手伝うし。  
彼女 どっかに蒔かせてくれるやか。

男 大丈夫よ。中庭とか。

ボク 中庭。

男 職員室に行く？

彼女 今から？

男 ほら、早く言っとかんと。先生おったし。

彼女 うん。

男 よし。職員室、行くぞ。

ボク 待つとく。

男 え？

ボク 俺、ここで待つとく。

彼女 一緒に行かん？

ボク 行かん。

彼女 うん。

男 じゃあ、ちょっと待つつて。

彼女と男が二人で消える。

ボクは咲いた花を見つめている。

女A 最初の花でした。

女B お花が咲いた。

俳優たちは歌をうたう。

【♪おはながわらった】

ボクはその花に手を伸ばすが、握り潰さずに、その場から消える。

女A 最初の花でした。

女B お花が咲いた。

男 それから何度も、

女A 花を咲かして、

女B 花を枯らしました。

男 それから何度も、

女A 花を咲かして、

女B 花を枯らしました。

彼女 そして、ボクは彼女に花を贈りました。

■贈った花（30才前後）

そこにボクが現れる。舞台は花屋。

生まれて初めての、花屋。店の前をウロウロする、ボク。

女B あの。

ボク あ、すいません。

女B どうか、されました？

ボク いや、えっと、

女B お花、

ボク ああ、

女B お買い求めですか？

ボク あの、まあ、

女B ありがとうございます。どうぞ、お入り下さい。  
ボク すいません。

ボク、店内に入り、あたりを見回す。

女B どういったものを、お求めですか？

ボク え？

女B あの、お花。

ボク ああ。

女B ・・・・えー

ボク すいません。ちょっと、こういうの初めてで。

女B ああ。

ボク 花、買ったことなくて。

女B そういう機会って、なかなか、ですね。

ボク はい。

女B どなたに贈る、お花ですか？

ボク あの・・・

女B はい？

ボク いや、えっと、結婚を考えていまして、

女B あ、そうなんですか？プロポーズ？

ボク ええ。

女B それは、おめでとうございます。

ボク ありがとうございます。

女B わー、じゃあ、はりきっちゃいますね。

ボク まあ。

女B どうしましょうか。どんな花がお好きとか、

ボク ・・・・。

女B って、難しいですね。

ボク すいません。

女B だったらですね、

ボク あの。

女B はい？

ボク　こんなのお花屋さん聞くのも、あれ、かも知れませんが。  
女B　何ですか？

ボク　ちよっと、格好つけ過ぎですかね？

女B　え？

ボク　プロポーズに花束って。

女B　そんなことないと思いますけど。

ボク　いや、ずっと悩んでて。

女B　そうなんですか。

ボク　こう、柄にもないっち言うか。ちよっと、キザかなーって。

女B　でも、お店の前に来ちゃって。

ボク　まあ、そうですね。

女B　はい。

ボク　そうなんですよ。

女B　悩むぐらいなら、贈っちゃったらいじゃないですか？

ボク　まあ。

女B　花屋だから、もちろん、そう言いますけど。

ボク　そうですね。

女B　いい感じにまとめてみましょうか？

ボク　え？

女B　花。

ボク　お願いします。

女B　分かりました。

ボク　すいません。

女Bは、店内にある花を手に取り歩いている。

ボクは、その様子を眺めている。

女B　何で、花を贈るんだと思いますか？

ボク　え？

女B　誰かに。

ボク　ああ・・・何ですかね。

女B　ね。

ボク　綺麗だから、とか。

女B　そうですね。

ボク　あ、いや、あの、考えたことなかったです。

女B 私もです。

ボク はい？

女B 花が好きだから、この仕事始めたんですけど。仕事していると、こう、疑問みたいのが  
浮かんできてるんです。何でかなって。何で花、贈るのかなって。

ボク ああ。

女B はい。

ボク 何でか分かりました？

女B いや、分かんないんですけど。

ボク ああ。

女B 分かんないですよ。そんなの。

ボク そうですよ。

女B だって、もう6万年も前から、人は誰かに花を贈ってるんですから。

ボク そんなに？

女B 何か、何やったかな。ネアンテルテル人みたいなあの時代からなんですって。

ボク へえ。テルテル人。

女B だから、分かんないんですけど。

ボク はい。

女B けど、昔つから、何か、みんな好きだったんだなーって思いました。誰か大事な人に花  
を贈ることが。つてのが、今の私の感想です。

ボク 感想。

女B お客さんは、何で贈ろうと思ったんですか？

ボク ボクは・・・

女B はい。

ボク 何ですかね。よく分かんないんですけど。

女B 理由なんていらないのかも、ですね。

ボク ですね。

女B 喜んでくれると思いますよ。大事な人から贈られる花。

ボク 喜んでくれますかね？

女B きつと。

女B はい。いつの間にか消えている。

ボク でも、花を贈って喜んでもらったことなんて・・・ボクに、  
彼女も、あったよ。

ボク え？

彼女 いつかのあの日、これからのあの日、

■あの日の花（いつか、もしくは、これから）

そこにボクが立っている。

しばらくすると、ボクの目の前に彼女が現れる。舞台は丘の上。

女Aと女Bは、少し離れたところから、こちらを見ている。

女A もう、急ぎすぎ。

女B もう、先に行かんでよ。

ボク ……。

女A こないだまで、抱っこしとったのに。

女B もうずっと、足が悪いんやけね。

ボク ごめん、なさい。

女A はー、ここは変わらんね。ずっと、あの頃みたい。

女B はー、ここは変わらんね。ずっと、あの頃みたい。

ボク ね。

女A 疲れてなーい？

女B 足は痛くない？

ボク 大丈夫。ありがと。

ボクと彼女、横並びにそこへ座る。

女A・B・彼女 ♪みかんの花がー

ボク ねえ。

彼女 何？

ボク 今、これはさ、

彼女 これ？

ボク 今これは、小学生の、学校の、もっと前の、赤ちゃんの、もっと後の、と後の、おじいちゃんの、うちの家の、その前の・・・

彼女 うん。

ボク 今これは、いつの、どこの事？

女A あなたがこの世に産まれてすぐの、

女B あなたがこの世を旅立つ前の、

彼女 私と二人で一緒に見た。風景。

ボク あ、そっか。  
彼女 覚えてない？

ボク 覚えとるよ。すっごい、覚えとる。この風景。

彼女 良かった。

ボク だって・・・

彼女 ん？何？

ボク あの、ね。

彼女 ん？

ボク これ。

彼女 え？

ボクは後ろ手に持っていた花を、彼女に向ける。

ボク 花。

彼女 お花。

ボク そこに、何か、綺麗なのがあったけ。だけ・・・だけ。

彼女 わたしに？くれるん？

ボク うん。

ボク、彼女に花を贈る。

彼女 ありがと。

ボク ここまで、一緒に来てくれたけさ。だけ、ご褒美。

彼女 ありがと。

ボク うん。

彼女 うん。

ボク ホントはね、もっと、

彼女 え？

ボク もっと、花をね・・・

# ■贈られた花（死後）

と、ボクに男が花を手向ける。

辺りには女A・Bは【みかんの花咲く丘】を歌い手遊びをしている。

舞台はボクたちの家。



男 ほら、いつまで遊びよるんか。

女A お父さん、うるさい。

女B うるさい。

男 うるさいやないっちゃ。

女A せーの、

男 止めなさい。

女A お父さん、うるさい。

女B うるさい。

男 じいちゃんが待つとるから。

女A 舞つとる？

男 待つとる。

女A じいちゃん舞つとるっち。ヒラヒラ。

男 は？

女B 桜やん。

女A じいちゃん桜。

女B ヒラヨボ。

男 どこで覚えたんか、舞うとか。

女A くのいちマイでしよった。

男 何か、それ。

女A 知らんの？

女B (決めポーズ) 桜舞う舞う、舞っている、

女A (決めポーズ) くのいちマイが舞い戻る。

女B (決めポーズ) マイが舞い戻ったからには、

男 (遮り) ほら、お花入れてあげて。

女A もう、途中やったやん。

男 知らんし。

女B くのいちマイの途中なんに。

男 じいちゃんが寂しがつとるけ。

女A じいちゃん？

男 そう、じいちゃん。

女A だつてね。

女B うん。

男 どしたん？

女A じいちゃん、動かんもん。

男 ああ。

女 A 動かんけ、面白くないもん。

男 そうやな。

女 B ばあちゃんは？

男 ばあちゃんは、じいちゃんとおるけ。

女 A ばあちゃん。

女 B ばあちゃん。

女 A・B、ボクのそばにいる彼女を抱き締める。

彼女 うん。

女 A あれ？

女 B ばあちゃん、泣きよん？

彼女 ごめんね。

女 A どしたん？

彼女 何かね、急に昔のことをいっぱい思い出してね。

女 A 誰かに怒られたん？

女 B 嫌なことがあったん？

彼女 全然なかったよ。そんなこと。

女 A え、いいなー。

女 B ね。

女 A うちらとか、さつきも怒られたし。お父さんに。

男 誰が告げ口しよんか。

女 B いいなー。

彼女 年取ると、嫌なことはね、忘れるんよ。

女 A え、そうなん？

彼女 あれも楽しかったな、これも楽しかったなっち、ね。

女 B いいなー。

彼女 (笑って) 急がんでも、嫌でもすぐ年取るけね。

女 A え？ヨボヨボ？

女 B ヨボヨボ。

男 こーら。

彼女 おじいちゃんはね、ずっと元気やったよ。ずっと。

男 ほら、じいちゃんにお花入れてあげり。

女 A・B はい。

女A・Bはボクに花を手向ける。

男 良かったよ。親父も、こんだけの人に見送ってもらえたら。

彼女 そうやね。

男 何もない、平凡な人生やったけね。

彼女 (笑って) そうかもね。

男 孫もおって、子どもも元気で、お袋にも見送ってもらって。

彼女 どうやろうね。

男 ん？

彼女 ホントはね、おくりたかったかもね。

彼女は立ち上がり、ボクに花を手向ける。

女A ばあちゃん。うち、うまくなったけ、見て、見て。

彼女 うん、そう。

女B うちもうまくなったんよ。

彼女 じゃあ、見せてみて。

女A 行くよ。せーの。

俳優はボクを囲むように立っている。

ボクを中心に、俳優たちが動き、歌い出す。

### 【♪みかんの花咲く丘】

歌の中、俳優たちは、散り散りに去って行く。

ボクは、手向けられた花の中で、あの日の場所を眺めるように、座り続けていた。

おわり